

<学校の教育目標>

○とりくむ子 ○考える子 ○やさしい子

学校経営方針（学力向上にかかわる要点）

子供の学習習慣や生活習慣を安定させ、それらを土台として、知識・技能の習得が進められ、自ら学び・考え、主体的に判断・行動できる力を重ねていく。そして、学んだ力を学習や生活の中に生かせるようにする。

○校内研究を通して

<研究主題> 確かな学力を付けさせるための指導法の工夫
「説明的文章の読みをとおして」（国語科）

○平素の授業を生かして

・教員相互に授業を見合い、指導力の向上を図る

確かな学力向上に向けた具体的な取組

改善の視点

- 言語活動を充実させた授業構成を図り、思考力・判断力・表現力を育成する。
- 授業に結びつく学習の構え<宿題・忘れ物>の大切さを繰り返し指導する。
- 問題解決型の授業を意識して推進する。特に、学習の見通しをもたせることを大切にする。
- 新学習指導要領改訂に基づいた計画的な学習指導の推進を図る。
- 高学年においては、教科担任的な指導形態を取り入れ、多くの教員が各学級の授業にかかわる。
- 国語科の説明的文章に視点をあてて、読解力の向上をめざす。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・見通しをもって学習を進めることを大事にするとともに、課題解決する喜びを味わうことができるような学習指導の充実を図る。 ・説明する活動や話し合う活動、調べ学習、書く学習など工夫した授業を展開し、言語活動の基盤をつくる。	・個に応じた学習指導を充実させるため、ゆとりある授業時間数の確保をする。 ・高学年の教科担任的な指導形態が可能になる指導計画の工夫をする。	・研究計画の見直しや改善を図るとともに年6回の研究授業を実施する。 ・OJTとして教職員が相互に日常の授業を通して研修できるような工夫をする。	・ワークシート、ノート指導、観察、発言等を活用し、確実に個人の学習成果を評価できるようにする。 ・評価に関わる学習活動の充実を図り、児童の自己評価・相互評価力の向上をめざす。	・保護者がボランティア活動として、学習補助などに積極的に参加できる工夫をする。 ・学校運営連絡協議員・学校関係者評価委員との連携を図り、適切な外部評価を得た教育活動の充実を図る。

<平成21年度の東京都学力向上を図るための調査の課題>

- 国語では、言語について「知識・理解・技能」や「読むこと」に課題があることが明らかになった。
 ①主語と述語の関係を理解すること②主語を認識できていること③叙述を基に想像しながら読むことへの対応が必要である。
- 算数では、数と計算についての表現・処理や数学的な考え方に課題があることが捉えられた。
 ①既習事項を基にして積の概算を行うこと②小数の減法や整数の除法を正確に処理していくことへの対応が必要である。
- 日常、必要な情報を得るために本や新聞を読むことが少ないことが分かった。

<授業改善の課題>

昨年度、実践を通して授業改善を進めてきたが、次の視点をもって授業を練り上げていくことが授業改善につながると考える。

- (1) 言語活動の充実を踏まえた授業構成
- (2) 指導のねらいを明確にし、見通しを大切に単元構成や学習活動の在り方の追究
- (3) 読み解く力を高める指導の工夫
- (4) 日常生活からの問題場面を取り上げ、既習事項を生かして問題解決を図る授業の推進を図る
- (5) 必要な情報を得るために本や新聞を読み生活習慣の確立
- (6) 家庭との連携